

語り合う

生命誌の広場

中村桂子の
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを
考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

無論…美しいものを求めて…

投稿日：2014.02.27 ニックネーム：hon no mushi

…ヘッセの『ガラス玉演戯』を頭に思い描きながら、お試しを兼ねた読書は続きます…

ふと、置いてあった本を開いて数ページ読んだら、僭越ながら、美しいものを追い求めて脇道にそれてしまった自分の人生と重なるところがあり、気になったので一部引用致します。

…リーマン予想、俗にRHと呼ばれているそれは1とそれ自身しか割ることのできない素数について予想したものであった。現在、素数とは整数界にアトランダムに存在すると考えられているが、リーマンは実はこの素数にはひとつの法則があると予測した。そしてその分布は優れた証明につきものである“美しい形”となって表されるであろうというものだった…

…「オメガの聖餐」（『独白するユニバーサル横メルカトル』）より…結末はまだこれからですが…

全然関係ないですが、思いついたのでもう一つ…
日本は原発大国にするより地熱を利用した方がいいです。例えば沸点の低いアンモニアでタービンを回すようにして…エネルギー資源は、温泉と同じく無尽蔵です。どうせ原発のごみを地下深く埋めるなら、どうやったら火山の熱をうまく取り出せるかに頭を使った方がいいです。温泉にもつかれますし…



中村桂子の「ちょっと一言」

ヒトゲノムと 意識

投稿日：2014.02.27 ニックネーム：たま

中村 桂子 先生

いつも 心待ちに ブログを 拝読しております。
ありがとうございます。

今回は どうしても お知らせしたいことがあり こちらの categorie で良いのか迷いましたが お許し下さい。

難病の子供たちと 認知症の救済に 生涯を賭けて取り組んでまいります 恩師の件です。 何度もこの様に 連絡させて頂く 正直な気持ちを 伝えさせていただきます。

実は 昨年、 長年 生命の研究をなされている 中村先生の事を “環”という 季刊誌で知りました。 先生のお考えに 深く共鳴し、それ以来 先生の著書を 夢中で拝読致しました。
特に “科学者が人間であること” を 読み終えたとき 今の世の中を 変えるために 一生懸命に訴えられておられる姿と 25年以上も意識の研究に打ち込み 医者から見放された 難病の子供たちや 認知症や 癌患者の方の治癒に 全身全霊で打ち込む 恩師の姿が重なりました。 また その方々が 治られている姿を見るにつけ わたくしの ほんのつたない力かもしれませんが



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプリー開催\(19.10.01\)](#)

が 中村先生の長年の生命のご研究と 恩師の長年の意識の研究を 繋ぐことができたなら スタッフ細胞どころではない、世の中が 変わってしまうくらいの大きな出来事になってしまう、これからの世の中や人類が 命のレベルで求めているのは これなんだと！ この思いを 消し去ることが出来ませんでした。

恩師が ブログを書いております。 短い期間で 今週末迄で 一旦締めくくらせて頂くものですが 2月20日にアップした "認知症は治る病気です(3回目)"の記事に 中村先生の著書の中の "ヒトゲノム・プロジェクト"についての本文を 大変参考になる記事として 引用させて頂いております。もし宜しければ 目をお通し頂ければと存じます。

3月1日の 東京での シンポジウムには 是非 足を運ばせて頂く所存しております。どうぞ 益々のご活躍 心より応援させていただきます。

<http://chowishiki.blog.fc2.com/blog-entry-3.html>



その他

「どこかに歯止めのある社会」に

投稿日：2014.02.24 名前：杉山 昭夫

中村先生の著書『「子ども力」を信じて伸ばす』と『「生きもの」感覚で生きる』を読み終えました。『「生きもの」・・・』は今から10年以上前に出版されたにもかかわらず、今読んでも非常に新鮮であり、中村先生の考え方が今に至るまでぶれていないことを強く感じました。また、先生が心配されている状況がさらに悪いほうへ進んでいるようにも思います。そのような視点から考えると、3.11の東日本大震災と福島原発の事故は、「歯止めのある社会」(P244)をつくるかけがえのないチャンスだったのだと改めて思います。生命を第一に考える価値観を共有するチャンスをみすみす逃し、私たちの社会はこれまでの価値観(経済・進歩・効率・競争等)で復旧・復興、東京オリンピック開催を進める道を選んだのではないかと思います。

著書の最後に、「これからの価値観として「美しい」ということを大事にできないでしょうか」と提案されています。自分の感覚として「美しい」を大事にできる社会になったら、一人ひとりがゆとりをもち、安心して暮らせることができるかもしれません。

著書の中には、心に留めておきたい言葉がちりばめられていて、すばらしい本との出会いに感謝しています。

出版から10年が過ぎました。科学技術の開発はさらにスピードを増し、生命科学も日進月歩と思います。ですが、先生が何度もおっしゃっているように、分らないほうが圧倒的に多いのだということ、何でも便利になることは、人間にとって幸福にはつながらないということは決して忘れてはいけないことです。手遅れにならないうちに「どこかに歯止めのある社会」づくりを始めなければならないと思います。その社会づくりの核に生命誌の考えをぜひとも取り入れてほしいものです。

そこで、ぜひ、先生に新たな本を書いていただくことを強く願っています。

『「子ども力」・・・』の内容も含め、教育と生命誌のかかわりにも触れていただき、中村先生の視点から最新の話や知見を織り込みながら、21世紀をよりよく生きるための問題提起と提案の書をぜひ書いていただきたいと思います。先に出版された岩波新書となると手に取る人が限られています。分かりやすく書かれていっても、一人ひとりに自分の生き方を考えさせる先生の本が一人でも多くの一般の人や女性、そして教育者に読まれることを切に願っています。

お返事

投稿日：2014.02.25 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。おかげさまで岩波新書の「科学者が人間であること」を読んで下さって共感を示して下さい下さる企業の方も多いため少しづつ変わっているようにも思います。一方で、政治の世界を見るとますます危うくなっていることも確かです。小さなことしかできませんが、生命誌を応援して下さい下さる方が少しでもふえるように努め、生きることを一番大切にする社会になっていくようにしたいと思っています。



中村桂子の「ちょっと一言」

四季はめぐる—そして同じ日は二度と来ない

投稿日：2014.02.24 ニックネーム：hon no mushi

お忙しい中、中村先生が夢の件を採り上げて下さって嬉しい限りですが、先に挙げた円の素数均等分割の遊びと併せて、私なりに考えを進めてみました。

…名付けて、「百億進法、千億ケタの思い」…

毎日生き死にする細胞の数を想えば、そんなの大した数でないですが…

インターネットの世界では、頻繁に情報が入りし、個人の力は無力で丸裸にされる程…人を孤立させるのも簡単です。

そこで、以前にご紹介した「クラインの壺」を思い浮かべました。

壺の表面に出ている時が情報が入手できる時、潜在的に隠れているのは裏に回っている時として…

そして、情報はその「空間」に蓄えられ、空間はそれ自体絶えることなく存在している。個人は利用する時そこに貼り付く隷属的存在…

同じことは、浅田彰さんが指摘したように、お金の出入りの世界、「貨幣空間」についてもやはりいえそう…

そして生態的変動による生き死ににも（死んだらゼロになるのではなく、潜在的に裏に回って、他の生物の支えとしての糧になる）…

いつ表出するか分からない、人間の意識でも…

それらはあまりにも平凡でありふれている世界だけれども

その全体を意識したとき、

まるで…

副題の如き那由多や無量大数の位の数を

望遠鏡や顕微鏡のような素数フィルターを通して覗いているようで…

同じ行程が二度と起こらないほど淋しさが感じられ、

あまりに無常…



その他

ちょっと数学的に…生命誌絵巻からマンダラに近づく…遊び

投稿日：2014.02.22 ニックネーム：hon no mushi

…先の夢の話についての補足です…

唐突ではありますが、くつろいでこらえて下さい。

一周、1（単位）の円があるとします。

①一箇所ハサミを入れて、ちょきんと切り、まっすぐにします。

②折り畳み定規のようにそれを2倍にし、両端と真ん中の折り返し点に印を残します。

③両端をつなげて、（細胞分裂の際に二つに分ける間のリングのように）風船でふくらませるようにして円を作り、さっきの印を円の中心と線分で結びます。

④天気図の晴れマークが出来ました。

同じ工程を、今度は②で3倍にして（折り返し点は二つになります）、一周3の（ベンツのマークのような）、均等に三分割された円を作ります。

これを更に②で他の素数倍にして試していきます。

その、「扇を広げて円にする」ような作業を繰り返します（その都度円周は長くなりますが、何分割されているかが問題なので、気にしないで下さい）。

幾つかできたところで、その中の内の任意の二つを取り出し、中心を合わせます。

…一本の線分を重ねると、他の線分は絶対に重ならないことに気がきます（円の大きい・小さいは気にせず）。

どの組み合わせでやっても一本を残して他は、必ずズれます。

それらの円達を、数で表された一つの世界とみると、それらを一個一個つくる工程が「密画的世界」に浸ること、二つを重ね合わせて俯瞰する一瞬が「略画的世界」を捉えること…の喩えでは、…これは言い過ぎでしょうか。

なんだか乱視のテストみたいですが、生き物（動物）としての人間は、もし二本以上重なっていたら、即、分かってしまうようです。

（…つまり、与えられた数が素数かどうかは、それ以下の素数割の均等分割円を作って、中心と一本の線分を重ね合わせていくことで、ごちゃごちゃ計算したりしなくても…わかる…）

案外、音の高さに移し替えると（単位時間にどれだけの波が入るか…の周波数に変えて）、耳で聞いて一瞬で（ハモるかどうか）、分かるかもしれません。可聴域なら…

その他

新しい人類について

投稿日：2014.02.19 ニックネーム：hon no mushi

ホモ・ノイエンス…勝手にそう名付けてしまいました。
実は昨晚、また夢に生々しいものを見てしまい…
立場をわきまえず申し訳なくお伝えします。

…新しい人類の姿を…

（前世紀までは、不意の災いによって、老若男女、容赦なく命を奪われていったが
二度の大戦を越え、医療・情報技術の進歩によって、格段に寿命は延び、生活はめくるめく良くなった…）

しかし夢の中の人類は…

孤独な「独り独り」の集合体だった

悲しくも淋しくもないのか、みんな無表情だった…

そして巨躯をなす人の集合体、それが一つの生命のようにまとまり、他の集合体と生き死にを争い、その生きざまを競っていた

…恐ろしい光景…

（その時の個々人は…たとえば、整数を3で割ると余りが0か1か2の3グループに分かれるけど、そのグループ内の数の多さの重複を避け、一人にまとめてしまった感じ…それが「独り」…。そしてこれが一階層をなし、この階層には3人…。次の階層の「ひとり」は5人、5の次の階層のひとは7人、次は11人…という風に…。

そして「敵」が来たら、それぞれの階層の「独り」らが感知して、敵を排除する。どこかの階層が感知しきれず見逃したら、だるま落としのようにそこが潰され、次の感知は前より難しくなるような…総力戦だった…）

お返事

投稿日：2014.02.20 名前：中村桂子館長

考えさせられる夢ですね。私はあまり夢を見ないのです。恐らく脳に欠けたところがあるのではと思っているのですが、ただ能天気なだけかもしれません。

その他

科学と執念(それは亡霊のように取り憑いて)

投稿日：2014.02.18 ニックネーム：hon no mushi

前提となる定義、そこから導かれる定理、その論理が育つ大前提となる公理の探求、実験による検証…本当はそんな風にピシッ、ピシッと綺麗に決めたいのですけれど、今回は脇道に逸れて…

先日夢の中で、右まぶたの上が腫れて薄青く、髪もその色の幽霊が金盃に立った姿で現れ、金縛りにあったようになったのですが、夜が明けその日たまたまTVで見た、カーリング女子で日本が対戦していたイギリスの選手の目の色が同じだったので、思わず「お岩さん」と言ってしまいました。夢の影響もあって、なんだかまるで亡霊と対決しているみたい…それだとゴーストバスターズみたいに現実と亡霊の世界を交差させないと…倒せない…などと独りつぶやいていましたが…しかし夢とは恐ろしい、次の日には、頭の中で音が鳴り響いている夢で、壮大なアニメソングのような、パッハの音楽のような、しかも今でもその音階を覚えています。ものすごくクリアな、ピアノの音色に近い硬質な音が素早く動き…

科学者も亡霊と戦うのでしょうか…その時の常識というのか、先入観といったものか…私も忌み嫌われて目の敵にされていますが、最近『すべてがFになる』

というちょっと古いミステリーを読みました。かなり限定された状況から話が繰り出されるのですが、仕込まれているカオスからの展開は複雑です。その中の男のような女の子、ロボット好きな女の子に共感を覚えました…が、五輪フィギュアスケート女子は鈴木明子選手に頑張ってもらいたいです。彼女の出来が、出場各国の女子全体の様相を占うカギになると思います。彼女には…執念を見せてもらいたいです。

…すいません、本当に勝手なことを書いてしまいました。



中村桂子の「ちょっと一言」

『小さいおうち』から感じたこと

投稿日：2014.02.14 名前：星野順子

バージニア・リー・バートン作『小さいおうち』という絵本があります。3年くらい前だったでしょうか、私が知っている絵本と同じタイトルに惹かれ、中島京子さんの『小さいおうち』を読みました。もちろん絵本とは内容はまったく違いますが、私の年代（60代）ならその時代に生きていたわけではないのに、どこことなく懐かしいような、そして当時の大都会における豊かな中流の人々の生活へのあわい憧れのようなものを感じました。最近この本の映画化を知り、映画を観る前にもう一度読み返すと、以前には感じなかった、なんとなく心がぞわぞわした不気味な時代の空気の方が強く印象に残りました。どうして以前と今回と読後の気持ちが違ったのだろうと考えたとき、3年前には現実でなかった東京オリンピック開催決定、3年前にはあまり現実的でなかった憲法改正論、それは今、なんとなく目には見えないけれど変わって行こうとしている気配を、本に描かれた時代と同じように感じたからではないかしらと気づきました。たかが3年の歳月でこんなにも感じ方が変わってしまったことに少々驚いています。今、私に何ができるかを考えたいと思います。そして、若い方々にも気づいてほしいと願うところです。

お返事

投稿日：2014.02.17 名前：中村桂子館長

バートンの「ちいさいおうち」は、子どもたちと一緒によく読み、今も本棚にあります。すてきな本ですね。中島さんの「小さなおうち」は私の世代には実感のある（もっとも実生活は小説のようなことはありませんが）ものです。ところで、この3年間で感覚が変わったというお気持ちもよくわかります。私が世の中にピタリと来なくなった始まりは、小泉・竹中改革です。新自由主義は合いません。そこへ今度の安倍首相の憲法（中学校の社会科で教えられたのに忘れたのでしょうか）、教育改革、NHK・・・どれも根は同じという恐ろしい話ですし、東京都知事もそれに同意で、大切なのは東京オリンピックだということですから。でもそのような人たちを選挙で選んだという事実が重くのしかかります。胸がザワザワする日々ですね。



中村桂子の「ちょっと一言」

自分史「生きる」の重版の日が迫る！？。

投稿日：2014.02.13 名前：橋本 圭隆

二月三日:配信の先生の憲法改正の独り言を読みました。学者さんですから憲法に見入られれば、憲法作家であられた「我妻 栄」氏の如く我々も先生の論調になるほどと思う項目が御座いました。私も同感ですが、重要な法案の改正には、多数決原理を採用している自由民主党がかじ取る日本は議員の三分の二以上の賛成多数でもって改憲が可能になると言うお考えは正に理を得た正論だと思えます。私も日本政府に慎重かつ冷静な改憲議論を何度も重ねてほしくおもいました。国会は国民の代表なのでから。

以上、感謝。

お返事

投稿日：2014.02.13 名前：中村桂子館長

前にも書きましたが岡本文弥さんの「戦争はいけません。散らかしますから」が基本だと思っています。戦争だけでなく皆で散らかさ



中村桂子の「ちょっと一言」

語幹は漢字で語尾の変化はその国の言葉・文字で

投稿日：2014.02.11 ニックネーム：弥勒魁

1月15日の言葉について、もう一言
多言語活動で知られる榊原陽さんのやっておられるヒッポファミリークラブという多言語教育団体が、ヒッポレターシステムという言語の表記法を提案しておられることは御存知かと思います。
これは、性・数・格・時制などで変化しない語幹部分を漢字で表し、変化する語尾部分はその国の言葉・文字で書き表す、というシステムで、日本語の漢字仮名混じり文を世界に普及させようとするものです。
「太陽は東に昇り、西に落ちる」
という英語は
The 太陽 升起s in the 東, 然后 落s in the 西。
と書く訳です。
この利点は、文章の意味と構造が、一目でわかることです。
私はこれを日中共同で何とか世界に普及させることを考えたら良いと思うのですが。

お返事

投稿日：2014.02.12 名前：中村桂子館長

ヒッポレターシステムは、私も面白いなと思いついて見えています。
お遊び感覚の中に言葉の本質が組み込まれていますね。それ以上あまり深く考えていないので今は・・・少し余裕ができたならなどと言いつつのことやらです。



その他

やわらかい言葉、細胞、脳味噌

投稿日：2014.02.04 ニックネーム：hon no mushi

また突然思い付いたことがあります…ご迷惑をかけます。

先に戦争による記号体系の組み換えについて述べましたが、STAP細胞のニュースを見て、あれも細胞を一つの体系と考えると何らかのくり直しが起きているのかなと思いました。若い個体の細胞からしかできないのが引っ掛りますが、細胞が孤立すると引き締まるのか…例えば分化していない二個の細胞がくっつくと、同じような性質を帯びるのでしょうか、同じ括りの袋に入れられるように…。更に隣り合う個数が増えると、それら全体が環境中で全滅しない規模に同じような働きをするものとしてまとめ、組織化され…

(そこで思考は飛躍して)

国も同じ様な括り直しの過程にあるのでは…ヨーロッパでは戦争の痛み分けで、戦前までに括られていた各言語国家を、更に統合憲章で大風呂敷に包んだようで…私は読んでいませんが、各言語の英仏独伊西…語で併記されているのでしょうか。言葉が記号体系を何段階にもまとめる役割をして…

アジア憲章なんてあったらいいな…
皆の言葉を併記して…

欧語の何となく感覚的なものですけど…伊語はでかい(と言いたくなるほど元気な)声で、仏語はショボショボ(口の形や口蓋垂の使い方が難しい)、独語は(心性や生活態度は日本人に近いでしょうが、ことばの面では絶対真似できないほど)カッチリ!しているようです。英語は…私はアメリカ英語は聞くのもひどく苦手なのですが(演技が好きな俳優はいます)、イギリス英語は独語とも発音の面で同じ族、息だけの音もあるし、日本人はイギリス英語を「英語」として最初に勉強するべきだと思います。結構質素でRとLの違いなどわかればすごく馴染みやすいのではないのでしょうか。英は同じ島国だし。語勢や語調はルーマニア語に近いような気がします(つかみどころのない柔らかさとか)…。

でも、みんなが皆、色々な言葉を喋れるようになったら、相対的に自分が下がっていくような気分がするのは何故か…



その他

投稿日：2014.02.03 ニックネーム：hon no mushi

私の中から生まれてくるのはほとんどやまと言葉で（漢詩に必要な音の上げ下げの平仄や英語圏の人のマザーグースが解らないのと同じで…第一、t hは息を出す時のかすれ音で結構、ッ！と、馴染みが…）、また今朝、他愛のないことばがイメージと共にポツと出てきましたので、この場に記したいと思いません…

風の影が 差ってきて

死の調べが 立ち昇る

つかまれ吊るされ…なんのその！

寝相のわるい猫のように 腹を出し

ほんとの本性 垣間みせ

…それはさておき、文化記号学の観点を示されたので、それで戦争を眺めてみると…トンデモナイことがわかりました。

戦争は押し付けがましく他の文化圏の記号体系を書き換える野蛮な行為なのだ、と…（ただ、ここで扱う記号は、あらゆる情報に色々な同値関係を入れて括り出し、整理され処理された、文化をなすコトの総体です）…そして、それは記号体系自体を主として標的にして作用し、打撃を与える事件であって、文化的シンボルとなっている代表者でない限り（これは後に裁かれる）、生身の人間はないがしろにされ、どうでもいい。

それは、征服者の視点で新たに支配民を自分達に都合良く括り直す、勝者が導入する関係性による敗者の仕分け…そこには「立派な大人」に対するルイーズやロッセのような子供の、原発災害の避難者など弱い立場の者の視点は反映されていない…

ふと、

ことばは出ていくとき死ぬ、可哀想なもの…それがわからない「大人」は「子供」の言っていることはわからない…

…そんな想いが頭をかすめました